

**2008年度 日本文化人類学会
第6回 理事会 議事録**

日時：2月8日（日）13：00－16：30

場所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）7階

出席者：山本、上杉、太田、春日、岸上、葛野、栗田、桑山、佐々木、須藤、
名和、吉岡

委任状提出：鏡味、窪田、坂井、瀬川、関根、鷹木

欠席者：赤堀、大塚、松田、和崎

〔承認事項〕

1. 2008年度第5回理事会議事録
 - ・前回（2008年度第5回）理事会議事録を一部文言訂正の上で承認。
2. 新入会員の承認
 - ・新入会員（13名）につき、総務会で入会を承認したことを報告の上で事後承認。
3. 民博フォーラムの後援
 - ・前回理事会で総務会による決裁が承認された、国立民族学博物館主催国際フォーラム「ライフデザインと福祉（Well-being）の人類学」（2009年2月28日（土）・3月1日（日）於：立命館大学衣笠キャンパス）について、学会として後援を行なうとした回答書を発送したことを報告の上で事後承認。
4. 『文化人類学』掲載論文の転載の許諾
 - ・『文化人類学』71巻4号（2007年）掲載の中生勝美氏の「書評」を、上杉富之・及川祥平（編）『歴史としての人類学・民族学』（成城大学大学院文学研究科・民俗学研究所・2009年3月刊行予定）に転載することについて許可依頼があったので総務会で検討し、転載を許可する旨の回答を発送したことを報告の上で事後承認。
5. 退会申込書の学会HPへの掲載
 - ・前回理事会の承認に基づき、退会申込書を学会HPへ掲載したことを報告の上で事後承認。
6. 理事会各種委員会委員の廃止、入替え、新任等
 - ・民博連携委員会委員の須藤理事が国立民族学博物館館長に就任予定であるため、2009年4月より吉岡理事に委員を交代することが承認された。

〔報告事項〕

1. 会長報告
 - ・『文化人類学事典』が2009年1月25日付で刊行されたことを報告。
 - ・2009年7月開催のICAESにおけるWCAAパネルに山本会長が出席予定であることを報告。
2. 庶務理事報告
 - ・前回理事会で報告された会員名簿の誤記載への対応が終了したことを報告。
 - ・2008年度事業報告・2009年度事業計画について、原案を3月中旬にメーリングリストで配信予定であること、それに対し、各委員会は確認の上、変更の有無にかかわらず2009年3月20日頃までに上杉理事まで回答を寄せることとした。
3. 会計理事報告
 - ・2009年度予算について、各委員会で要求があれば3月20日頃までに葛野理事が事務局まで連絡することとした。
 - ・2008年度の支出について、支出済みの案件は2月末日までに事務局へ連絡することとした。

- ・2008年度地区研究懇談会報告書・決算書は最後の研究会終了後、4月初旬までに事務局へ提出することとした。
 - ・第42回研究大会準備委員会より学会からの補助に対し余剰金が生じたため、返金の申し入れがあったことが報告され、余剰金の受入が承認された。
4. 総務理事報告
- ・5月29日開催の人類学関連学会協議会合同シンポジウムのパネラーの推薦を各学会へ依頼し、パネラーが決定しつつあることを報告。
5. 各種委員会報告
- ・『文化人類学』編集委員会：73巻4号の進捗状況を報告。学会ホームページに、論文投稿の際に投稿受取メールを送信していることを周知する一文を加えることとした。
 - ・JRCA編集委員会：Vol.9の進捗状況を報告。また、桑山理事より、JRCA周知のため、『文化人類学』73巻4号にJRCAの論文紹介を掲載したいとの提案があり、検討の上何らかの形で紹介が行なわれることが認められた。その方法の詳細は、JRCA編集委員会の意向を汲みつつ、『文化人類学』編集委員会で検討することとなった。また、英文校閲の方法や校閲料のための予算の増額について審議を継続することとした。
 - ・国際連携委員会：学会から送付した会費値上げの経緯を照会する文書に対するIUAES事務局からの回答を紹介した。これまでの説明と同じく、値上げは正当な手順を踏んだものであるという趣旨の回答であった。この回答では経緯が十分には明らかにされていないため、この件に関しては、この夏のICAES会議の場で決着を確認することとした。
 - ・民博連携委員会：民族学博物館主催のワークショップ「技術協力プロジェクト評価手法に関する文化人類学からの提言」（2009年2月16日開催）と、一般公開シンポジウム「人類学の挑戦—これまでとこれから」（2009年3月8日開催）の趣意書が回覧され、連携事業実行委員会が前期理事会に提出・承認された計画書に基づき、学会との共催とすることが確認された。また、連携事業実行委員会の委員長は須藤理事が今年度いっぱい務めることが報告された。
 - ・研究大会運営検討委員会：山本委員長代行が、第44回からの査読、ポスターセッションの導入について委員会で検討を行なっていることと、次回の理事会でこれらの点について審議を行い、次回総会に向けて研究大会運営に関する理事会案を次回評議員会に提案する予定であることを報告した。
 - ・地区研究懇談会担当委員：各地区の開催予定を報告。
 - ・『文化人類学事典』編集委員会：上杉理事より、『文化人類学事典』の目次部分に誤植が見つかったことが報告された。誤植への対応については原案を編集委員会と総務会で作成して持ち回り理事会（メーリングリストを通しての理事会）に諮り、審議・承認を経た上で、丸善株式会社に対して編集上のミスを確認して謝罪を求めるとともに、重版に際しては誤植の訂正を要望することとした。
6. その他
- ・配付資料により第42回研究大会の報告および決算報告が行なわれた。
 - ・第43回研究大会の準備状況について、佐々木理事より報告があった。個人発表登録が2月10日締切りであることをJASCA-INFOで至急配信することとした。

〔審議事項〕

1. 「名誉会員内規」の改定案

- ・変更箇所を資料に基づき確認、承認された。この改定案は次回評議員会へ提出することとした。変更箇所は下記の通り。

(変更前)

第二条 以下の二項目を満たす者を名誉会員の候補資格者とする。

- 1) 当該年度の4月1日現在で満70歳以上の者
- 2) その前年度までに、学会会長職を務めた者、もしくは理事職5期以上を務めた者

2. 前項の規定によらず、とくに理事会が名誉会員とするにふさわしいと認められた者に関しては、候補資格者とする。

(変更後)

第二条 当該年度の4月1日現在満70歳以上の者で、その前年度までに以下の項目の一つ以上を満たす者を名誉会員の候補資格者とする。

- 1) 学会会長職を務めた者
- 2) 学会理事職を5期以上を務めた者
- 3) 日本文化人類学会賞を受賞した者

2. 前項の規定によらず、とくに理事会が名誉会員とするにふさわしいと認められた者に関しては、候補資格者とする。

2. 学会賞・奨励賞の推薦候補者の選定

- ・日本文化人類学会学会賞選考規則3の3)の規定に則り、出席理事数が理事総数の過半数に満たなかったため、次回の理事会で改めて投票による選定を行うこととした。

3. JRCA編集規定の変更の提案

- ・桑山理事より、現在、査読規定の第2条により、レフリーは最低2人を選び、そのうちの1人は原則として海外居住者（現実には外国人）となっているが、編集上の大きな障害となっていることから、レフリーについて少なくとも1人が海外居住者でなければならないとの規定を廃止したいとの提案があり、承認された。Review Procedures for *Japanese Review of Cultural Anthropology* の変更部分は下記の通り。

(変更前)

Article 2: For an article, the editorial board will obtain reviews from at least two parties who are academically qualified as peers. As a rule, one referee should be an overseas scholar while the other should be a domestic member of the Society.

(変更後)

Article 2: For an article, the editorial board will obtain reviews from at least two parties who are academically qualified as peers. つまり As a rule 以下を削る。

4. その他

- ・2008年度で会費未納期間が4年目の会員について資料を回覧し、退会処理を行なうことを承認した。
- ・東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所からの共同利用・共同研究拠点化要請依頼に対し、要望書の送付が承認された。今後、神奈川大学からも依頼があると予想されるが、その場合の対応は総務会に一任し、事後報告を行なうことが承認された。
- ・丸善株式会社より『文化人類学事典』出版契約書が届いたことを報告。議論の末、契約の締結を一時留保し、丸善出版からの出版契約書を理事会メンバーリストへ配信して意見を募り、引き続き検討することとした。

以上